

シンポジウム

リストラクチャリング—技術戦略の視点から—

司 会 野 中 郁 次 郎

(1) 事例報告

日本の鉄鋼業のリストラクチャリングの課題	荒 牧 透	新日本製鐵
設計プロセスの改革—Virtual Engineering—	沼 田 潤	ソニー システムデザイン
新合繊開発と合繊メーカーのリストラクチャリング	萩 原 誠	帝人
FD技術開発と事業化	今 村 哲 也	花王

(2) 総合討論

コメンテータ	原 陽一郎	東レ経営研究所
	志 村 幸 雄	工業調査会
	大 滝 精 一	東北大学

趣 旨

今日の日本企業の多くは、「バブル崩壊」という今までに経験がない事態に起因する新しいタイプの困難に直面しており、リストラクチャリングの必要性が声高に叫ばれています。しかし、その一方で「リストラクチャリング」の本当の目的や意義が見失われがちなのが現状です。「リストラクチャリング」という言葉がその本質的な意味を離れて、単純に「コストダウン」とほぼ同義の言葉として、ひとり歩きしがちなのが現実です。コストダウンや経営のダウンサイジングが必要であるというのは、確かに一面の事実であり、研究・技術開発もまたこの種の挑戦から逃れ得るものではありません。しかし、このような短絡的な認識は、せっきくの本質的なリストラクチャリングの機会をみすみす見逃す結果につながりかねません。表面的なリストラクチャリングは、かえって研究・技術開発への取り組みを誤った方向に向け、日本企業の技術力の基盤を脆弱にさせる危険性を含んでいます。

今回のシンポジウム・セッションでは、

- リストラクチャリングにおける技術戦略の役割は何か
- 日本企業の技術開発の領域での中核能力 (core competence/capability) はどこにあるのか
- 技術力や技術戦略のどこを強化して、どこを変えていくべきなのか
- 日本企業の研究開発における知の創造の特質は何か
- ソフト化・多元化といった技術の新しいトレンドやエコロジーなどの技術を取り巻く社会的変化にどのように対応していくべきなのか

といった観点から、リストラクチャリングのカギとなる技術戦略の新しいモデルを探っていきたいと考えております。シンポジウムではいくつかの産業セクターで日本を代表する企業の方々から、リストラクチャリングを志向した研究・技術開発とその背景にある技術戦略の事例を報告していただきます。